

第 19 回歌舞伎町ルネッサンス推進協議会（8 月 19 日開催）におけるご意見について

岸井委員

東京都で実施している海外旅行者への調査では、新宿区／歌舞伎町ともに人気下がっている。
危機意識や目標、新宿全体を盛り上げるという共通認識を持つことが大切。
そういったシナリオを基本方針の中に組み込んでいけると良い。

佐藤委員

策定委員会の資料は、皆さんの「いろいろやりたい」というエネルギーが感じられる成果で非常に良かった。

これからは、実行に向けてプロジェクトを検討していくが、誰が何を担うのかという事業論や組織論、資金調達のことが必ず必要になってくる。

花と緑に関する取り組みには、補助金や助成金の制度があるのでぜひ使ってほしい。

防災の観点であればオール歌舞伎町共通で取り組めるのではないかな。

倉田委員

アメリカ NY のエリマネ組織は 70 以上あるが、予算のほとんどを「クリーン&セーフティ」に使っている。

「清潔であること」「安全であること」は最も重要な基盤であり、まずその実現がないと他の取り組みも成果が上がらない。

治安維持のために「セキュリティオフィサー」を雇用し、常にパトロールしながら歩くインフォメーションとして人々からの質問に答えている。

警察を直接雇用している例もある。日本では状況が異なるが、警察の取り組みを補完する意味で、地元組織が大量の人員を投入している。

歌舞伎町でも「クリーン&セーフティ」に力を注ぐ必要がある。

これらの成果を収めた上で、屋外イベントやパブリックアートなどの取り組みを行っている。

竹花委員

セーフティの問題は昔より改善されているはずだが、イメージが向上していない。

シネシティ広場を象徴的な広場として積極的に活用して歌舞伎町らしい特色を模索しながら生み出す。

積極的に活用することで、不用に滞留されることもなくなるのではないかな。

根本委員

この 20 年で犯罪形態が多様になってイタチごっこになっている。

歓楽街が持つ危うさも歌舞伎町の魅力になっていて人が集まる。20 年間、混乱と模索を繰り返しながら進めてきた。

本来は犯罪をゼロにするのが望ましいが、リスクを許容したうえで管理可能なレベルをどこに設定するかが大切。

高橋委員

策定委員会の皆さんに尽力いただいてありがたい。

歌舞伎町のイメージが悪いのは、広報戦略の課題があるのではないかと。原因を追求して対策を立てたい。

広報は目玉を設定し、何を打ち出すかを明確にすることが重要。

また、メディアへの伝え方への工夫も必要。

木村委員

歌舞伎町は悪いニュースの方がメディアに取り上げられやすい。

シネシティ広場の様々な取り組みもあまり伝わっていない。

海外の方に話を聞くと「怖い」イメージはなく、「一日中明るくて子どもを連れて夜まで遊べる」という印象。

エリマネにはとにかく費用がかかる。ごみ箱の設置にも年間かなりのランニングコストがかかる。美化につながるとしても、どれだけお金がかかるかは認識しながら進める必要がある。

渋谷では広場がなく苦勞しているが、歌舞伎町にはシネシティ広場があるため、積極的な活用でブランディングにつなげたい。

いとう委員

歌舞伎町を「ゴミ対策試験都市」と宣言し、AI ロボットの導入やゴミ拾いの報酬制度など、試行錯誤を公開して街の魅力に変える。

また、「映像フェスティバル」を開催し、街中のモニターで一斉上映を行うなど、治安向上とエンタメ発信を同時に実現させる。

さらに、多様なジャンルのイベントに会場を安価に提供し、クリエイターやファンが自然と集まる、常に新しいことが起きる街の仕組みを構築していくべき。